

110周年事業（比較文化学部）

ニュースレター 第7号

韓国国際交流財団による講演会を開催

比較文化学部が企画する110周年事業のひとつである「大使館リレートーク」企画の第5弾として、12月10日（月）3限の「日韓関係論」の授業に韓国国際交流財団の李鎮夙（イ・ジンスク）様をお招きし、講演をしていただきました。

「近くて遠い、でも本当は近い韓国」と題した講演では、まず、韓国と日本の交流の歴史についての紹介、そして日本－韓国間の近年の交流増大について統計や実例を交えたお話がありました。



講演の様子

これまでのリレートークと異なっていたのは、講演中にしばしばクイズがあったことでした。韓国の文化、社会そして生活に関する問題が、一問一答形式あるいは○×方式で参加者に投げかけられました。多くの学生が手を挙げて参加し、教室内の熱気も高まりました。



講演の様子

また、ワークライフバランス、女性の社会進出、ライフスタイルなどといった、現代韓国社会において議論されている重要トピックの紹介がありました。さらに、韓国に関心をもつ学生に対してひらかれている機会を紹介していただき、そうした機会に関連した韓国国際交流財団の活動を紹介していただきました。



クイズの様子

講演末尾の質疑応答タイムでは、教員や学生からたくさんさんの質問が寄せられました。



質疑応答の模様

学部では近年、映画やドラマそして音楽を通じて韓国に興味をもつようになり韓国語や韓国を専攻する学生が増えてきています。幅広いトピックを扱ってくださった李様のご講演は、そうした学生それぞれにとって刺激となりました。

これまで4つのリレートークを開催してまいりましたが、欧米諸国に関する講演が続いておりました。本学部にはアジア、アメリカ、ヨーロッパと、3つの文化コースが設置されているため、最後となる5つめのリレートークでは、ぜひアジア文化コースの学生に喜んでもらえる講演を開催したいと模索してまいりました。ところが、講演依頼を受けてくださる組織・団体に出会うことができず、講演をなかなか実現できずにいました。

そのようななか、公益財団法人日韓文化交流基金のご紹介で韓国国際交流財団そして李様とのご縁ができ、この講演会を開くことができました。そして李様には、知的刺激に満ちた講演をしていただいただけでなく、講演前には本学教員そして学生有志と懇談してくださりました。李様、韓国国際交流財団、公益財団法人日韓文化交

流基金をはじめ、開催にあたってご協力いただいた学内外の皆様にお礼を申し上げます。

これで学部主催の110周年記念事業はすべて終了いたしました。リレートーク終了にともない、原学部長にご寄稿をお願いいたしました。次項の学部長メッセージをもって、7号にわたりましたニューズレターも終刊となります。これまで寄稿して下さった皆様、読んで下さった皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

祝！リレートーク貫徹！ 学部長 原研二

大使館関係の方々にお話をうかがうというのは、われわれ教員にも新鮮でした。5度に及ぶ企画の中心となって、折衝から事務的準備からいっさいをこなした井上先生の労をねぎらいたいものです。なかでもEU大使館招請は5月早々の、大学全体からしても第1弾となった企画で、創立110周年記念事業とうたい上げるからにはちゃんと広報が動いてくれて良かったのという気がしております。1度も加わることのなかった教員も、なんだかね……。サービスされるのが当たり前と思っている消費学生が、企画そのものをお手伝いするようになって、教育者井上先生も報われるというもの。個別のお話、情報ばかりでなく、何にせよ積極的にかかわって勉強した者のみが、経験を豊かにするということも、学生に伝わっていることと思います。学生にとって、ちょっとでも考えるきっかけや、もう少し英語できるようにといった刺激になっているといいですね。

110周年事業（比較文化学部）

ニューズレター 第7号

発行日：2018年12月20日

発行者： 井上 淳